



「築城図屏風」(名古屋博物館蔵)

### 大友時代を 生きた人々

鹿毛 敏夫

豊臣秀吉は、天正10(1582)年の本能寺の変で没した織田信長の後を継ぎ、同18(90)年に全国統一を完成し、百数十年続いた戦国時代を終わらせた人物といわれます。年齢は、享祿3(30)年生まれの大友義鎮(宗麟)に対して、信長は天文3(34)年生まれの4歳下、秀吉は同6(37)年生まれの7歳下です。列島に割拠した戦国大名と、全国統一を成し遂げた豊臣政権とは、統治の仕組みにどのような違いがあったのでしょうか。豊臣政権の特徴の一つは、他大名を圧倒する動員組織力といわれます。ここでは、秀吉の土木事業と自らのその比較場面に遭遇した義鎮の言葉を紹介します。

豊臣秀吉は、天正10(1582)年の本能寺の変で没した織田信長の後を継ぎ、同18(90)年に全国統一を完成し、百数十年続いた戦国時代を終わらせた人物といわれます。年齢は、享祿3(30)年生まれの大友義鎮(宗麟)に対して、信長は天文3(34)年生まれの4歳下、秀吉は同6(37)年生まれの7歳下です。列島に割拠した戦国大名と、全国統一を成し遂げた豊臣政権とは、統治の仕組みにどのような違いがあったのでしょうか。豊臣政権の特徴の一つは、他大名を圧倒する動員組織力といわれます。ここでは、秀吉の土木事業と自らのその比較場面に遭遇した義鎮の言葉を紹介します。

### 豊臣秀吉

### 動員組織力で他大名を圧倒

坂に向かいます。義鎮は、この時の大坂城での秀吉との会見の様子を細かに記録して、豊後で待つ重臣に送っています。注目したいのは、「大友家文書録」中に掲載されるその書状の2カ条目です。

「御門内御普請の様子、諸国よりの馳走人夫、幾千万とも申す計りなく候、その国の祇園会・放生会四ツ五ツ合わせ候ても、人数はこれ程有りがたく候…大石持ち連ひ、入れ替わり入れ替わり馳走候に、声を高く仕り候者一人もこれなく候、堀の深さ、口の広き事は比類なく、たゞ大河の様に見るさへもきとくふしきと存じ候」

4月6日、義鎮は秀吉と面会します。この時秀吉は大坂城を建設する最中で、義鎮らは、築城人夫でこった返す城内を通り、秀吉の待つ天守へと向かったのです。

義鎮は、城内に諸国から集まった「幾千万」の人夫の数に驚き、また、彼らが巨石を運ぶのに声を上げることもなく働く様子、そして建設中の堀が大河のように深く広い状態を、「見るさへもきとくふしき(奇特不思議)」と記しています。そして、自国豊後で毎年開催する「大祭り」、府内祇園会と柞原八幡宮放生会に集まる民衆の数と比較し、その4〜5倍の数の「馳走人夫」が、整然と統率された状態で労役に従事する光景に圧倒されたことが分かります。

名古屋博物館には「築城図屏風」という秀吉もしくは徳川家康の築城を描いた絵画がありますが、義鎮が大坂城で目撃した光景も同様だったと思われまふ。豊臣政権が押し進める大規模土木工事の現状を目の当たりにした大友義鎮にとって、自らがこれまで経験した人的動員と統一政権のそれとの質的・量的差異を認識するに余りある見聞になったと推測されます。

(名古屋学院大学国際文化学部教授)

11月1回掲載